

アニマシオン

animación

商標登録 第 5139682 号

特定非営利活動法人日本アニマシオン協会

商標登録 第 5139681 号

会報 3 号

2009年3月28日(土)発行

編集人/塚本 美樹 発行人/黒木 秀子

〒274-0825 千葉県船橋市前原西 2-21-8 松沢ビル 2F

TEL 047-402-3111 E-mail info@animacion.jp

FAX 047-402-3061 URL http://animacion.jp/

すべての子どもに読書教育を

アニマシオン紹介十三年目の幕開け

黒木 秀子



アニマシオン・という耳慣れない言葉を私がはじめて聞いたのは、一九九七年春のことでした。ご縁あって、その春に『読書で遊ぼうアニマシオン 子どもを本好きにする25のゲーム』(マリヤ・モンセラット著 柏書房)を青柳啓子さんとともに翻訳行なうた佐藤美智代さんからいただいた大きなプレゼントが、「アニマシオン」でした。それ以前にもヨーロッパの青少年文化運動としてのアニマシオンは紹介されていたのですが、私は佐藤さんの翻訳書によってこの言葉を初めて知り、また、日本の多くの方々も同じではなかったらうかと思っています。そのときから九十二年が経ちました。読書教育法である「読書へのアニマシオン」は、日本でようやく満十二歳を迎え、十三年目に入ろうとしています。

本に背を向けた子ども

モンセラット・サルトさんたちのグループが、スペインで一九七〇年代から約二〇年かけて開発した読書教育メソッド「読書へのアニマシオン」は、本に背を向けた子どもたちのためのものです。

一九七〇年代はヨーロッパで「子どもの本離れ・活字離れ」が深刻に憂慮された時期。モンセラットさんはその状態を「子どもは本を読まなくなっているのではない。読めなくなっているのだ」と考えました。日本ではどうでしょうか。個人的には一九八〇年代に入り家庭にビデオ機器やゲーム機が普及した頃に「子どもが本を読まなくなった」という声が社会全体で上がってきたように思います。

モンセラットさんは、子どもが本を「読めなく」なっているのだから、「読めるように育てる教育」が必要だと主張し、そのための具体的な方法を考えました。それが「読書へのアニマシオン」(直訳すれば読書に向かっているの活性化という意味)です。読書は自発性による行為です。「背中を向けている」「放っておけば一生、本には縁がなさそう」な子どもの心を読む楽しさにひきつけて、「読める」ように育てる大切さに、多くの方がこの十二年間、共感なさって来たのだと思います。

「読めなく」な子どもは多いのよ。

子どもの読書に関わるさまざまな場所が、アニマシオンを、色々な場所

で試し始めました。私自身も、はじめは地域活動の中で、それから習い事や学習教室で、アニマシオンを見れば真似て試してみようというようになるための「ねらい」を持った遊びを行うのですが、それにはどの本がふさわしいか、どのように進行すれば「ねらい」が達成されるのか、私自身の勉強の時期でもありました。

そのうちに、私のような者にも小中学校でアニマシオンをやってみてほしい等のお声がかかるようになり、私でよろしければと喜んで何うようになりまして。

その中で、かなりのショックとともに気づかされたことがあります。それは、地域活動や習い事、あるいは公共図書館の催しなどに来る子どもたちと、公立学校の学級で出会う子どもたちとは、何か、どこかが違う、ということでした。

勿論、地域読書活動に積極的参加してくる子どもも公立小学校へ通っている場合がほとんどですから、ひとりひとりの人間が違うなんてことではありませぬ。それは、こういう意味です。

本に背を向けた子どもは地域活動や習い事にはなかなか来ません。しかし、その子たちは学校には来ます。そして、そういう子どもたちが本と出会うほとんど唯一の場所が学校図書館であり、学校司書や担任の先生を通して読書という行為を初めて知るのです。

本好きな家庭で丁寧な育てられたい子どもたちと出会うことの多かっ

た私には、学校へ何うようになつて改

めてそれを実感しました。それまで

この数年を費やしてきました。私の願いは、どの子にも読書の喜びを知ってほしいということ。そのために、学級のみならず同じ一冊の本を読んだ、その本で遊ぶというアニマシオンのやり方をご紹介しています。

NPOを設立して

アニマシオンを実施してみたいけれども、そのための図書を集めることが難しいというお声をたくさんいただきました。確かに、公共図書館の学校支援係等と連携をしても、同じタイトルの本を学級人数分集めるのは大変に困難なことです。そこで、昨年四月に、アニマシオン用の同一タイトル二十冊セット図書を出し出したNPOを作りました。それが当協会です。

子どもにとって本当に大きな意味のある読書教育が、「そのための本を揃えられないから」という理由で実施されないのは悲しすぎます。そして、種々の予算措置の中で、読書教育のための読書材が十分に準備できるような社会であってほしいという、提案型のNPOを作ったつもりです。

その根底にあるのは「すべての子どもに読書教育を」という願いです。「読まない子」「読めない子」たちと一緒に、忍耐強く、でも、楽しく、読書をしていきたいと切望しています。

どの子にも読書の喜びを

その頃は、二〇〇三年に国際学力到達度調査(PISA)で日本の十五歳の読解力低下が指摘され、また全般的な学力低下が言われ、「ゆとり教育」の見直し、全国学力調査など、教育の見直しが行われようとしていた時期に差し掛かっています。

子どもの読書推進についても法律整備が行われ、特に「朝の読書」運動の広がりとともに、学校でも読書への取り組みが熱心に行われるようになってきました。

その中で、読む力を育成する具体的な方策としてアニマシオンに注目してくださる方が増え、現在では学校全体で年間計画を立てて全児童にアニマシオンを実施してくださる学校も現われてきています。

私自身も、自分が学んで試行錯誤しながら、日本の子どもたちが読むに相応しい良書を選び、それをアニマシオンの作戦に仕立てることに

特定非営利活動法人 日本アニマシオン協会 入会案内

- ### 【会員募集】
1. 正会員 アニマシオン用図書の貸し出しを受けられます。定期的に会報をお届けします。協会主催の催しでは正会員割引があります。
 2. 支援会員 協会の趣旨に賛同いただき、会費を納めることで活動を支援していただきます。
- ### 【入会金・年会費】
1. 正会員 入会金 2,000円、年会費 3,000円
 2. 支援会員 年会費 1口 50,000円 (1口以上)
- ### 【入会方法】
1. 事務局までご連絡ください。(電話、FAX、メール) 協会案内と払込票を郵送いたします。
 2. ゆうちょ銀行にて会費をご送金ください。
 3. 入金確認後、事務局より会員証(会員番号記載)を郵送します。
 4. 毎年4月からの新年度には年会費を納入してください。(会員証は3月31日まで有効となっています)
- ### 【特定非営利活動法人日本アニマシオン協会事務局】
- 電話 047-402-3111
FAX 047-402-3061
E-mail info@animacion.jp

新年度「年会費の納入」をお願いします

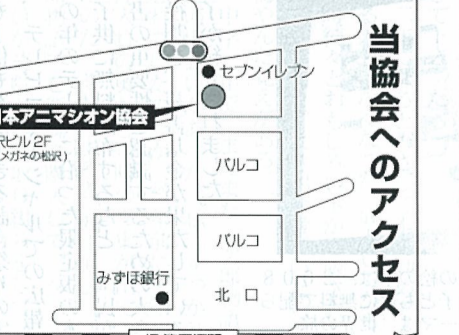
四月から当協会の新会計年度が始まります。すでに会員となられた方には、ゆうちょ払込票をお送りしておりますので「年会費の納入」をお願いします。(納入済みの方には同封してありません)

入会状況

たくさんのご入会ありがとうございます。3月28日現在で、正会員153名・支援会員6名(社)のみなさまにご入会いただきました。「ほかの方にも紹介したい」などのご要望がありましたら、協会案内・会報をお送りしますので事務局まで遠慮なくご連絡ください。

事務所を移転しました

旧事務所の近所に引っ越しました。電話・FAX・メール等は変わりません。



協会ホームページもご覧ください

http://animacion.jp/ では最新の情報をお届けしています。現在、デザインの刷新を準備していますので、お楽しみに!

『黒木秀子のアニマシオン日記』

理事長・黒木がアニマシオンにまつわる様々な内容を日記に書いています。使用図書と作戦の話、出会った方々とのエピソードなど、アニマシオン実施のヒントが盛りだくさん。

⇒日記の第1回から101回までを『あした天気』と題した冊子にしました。ご希望の方には頒価500円+送料実費でお送りしますので、事務局までご連絡ください。

『アニマシオンのお知らせ』

協会のメンバーは各地でアニマシオンを実施しています。それらの情報をお知らせするコーナーです。

『アニマシオン図書・貸出状況』

図書の貸出状況や予約状況がわかります。

『リーパーすみ子のページ』

9月の当協会主催のセミナーで講演して下さったリーパーすみ子さん。それがご縁で私たちのHP内に日記ページが開設されました。

子どもたちといっしょに「アニマシオン」 一歩一歩の記録から

聞き合ひ認め合ひつ学級づくり アニマシオンの実施を通して

磯 茂子

私は、ごく普通の公立小学校の教員です。アニマシオンを全校実施している学校でもなく、校内研究のテーマは「理科・生活科」です。区小研の図書部に参加しているわけでもありません。アニマシオンに出会い、アニマシオンの魅力に引きつけられ「何とかしたい・何かしたい」という思いは強い。そういうひとりの教員です。でも、アニマシオンを実践している先生方の中にはきつと私のような方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。

日々学校行事や校務分掌に追われ、日々の授業さえも自転車操業。子どもの対応に加えて保護者への対応もあり、アニマシオンどころではない。というのが現状です。「63%」という数字が示すように、私が担任するクラスでも問題行動を起こす児童、指導が難しい児童などはその数字以上の割合です。

アニマシオンを実践したくても、難しいのが一般の公立小学校の現状です。それでも今年度は私が担任する三年生38人のクラスで次の表のとおり三回のアニマシオンの授業を行うことができました。

1 学期	『ランパンパン』
	作戦 55 「聴いた通りにします」 *クラス替えをした後、学級の様子 が落ち着いてきた6月下旬に実施
2 学期	『おさるのまいにち』
	作戦 12 「前かな、後ろかな」 *行事に追われ、成績処理も終わった 終業式2日前に実施
3 学期	『ネコのタクシー』
	作戦 54 「だれが、だれに、何を」 *1月の授業参観日に実施

これらの実践をして感じたことを
①アニマシオンは学級経営の基本
三点、次に述べたいと思います。

アニマシオンは読書教育です。アニマシオンを通して、子どもたちが本を注意深く読んでくれるようになること、本に近づいてくれることができるれば嬉しいものです。しかし、「それ以上にアニマシオンは学級経営の基本である。」「児童相互の認め合いや教師が児童を受け入れることを含んでいる。」と感じました。

アニマシオンを実践するときのスタイルを思い出してください。U字型に座る。お互いの顔を見合う。つまり、お互いの意見を聞き合うのです。コミュニケーションの第一歩は「聞くこと」から始まると言われています。「聞く」ということはお互いに時間を共有することでもあり、お互いの気持ちを共有し合うということです。先生(アニマドール)も子どもたちの意見を否定しませんが、つまり発言の全てを受け入れるのです。

三学期の参観日の後の保護者アンケートで次のような声が寄せられました。「子ども同士、顔が見合えるという形で発表し合う授業で、よい雰囲気(友だちの発言もよく注目し、聞く)だと思いました。また、先生が発言に対してよくほめ、けして否定せず受け止めてくださるので、皆思ったことを伸び伸び言っていると思います。」

②わずかな歩みでも継続すること
一年生の時に担任した子どもたちを、また今年度受け持つ機会をいただきました。一年生の時には「あたごの浦」「アイラのおとまり」でアニマシオンを実施しました。子どもたちには「アニマシオン」という言葉は使わずに「本とともだちになる」という單元としてアプローチしています。今回「ランパンパン」を一学期に実施するとき、「ほら、一年生の時に本で遊んだでしょ」と言っても、覚えていない子は数人で、「忘れちゃった」という子が大半でした。でもU字型に座ったとたん「んか、やったことがある」という反応。一挙にプランクが縮まり集中することができました。



H20.12.22 『おさるのまいにち』
作戦 12 「前かな、後ろかな」

これから、多くの先生方は新年度準備にとりかかると思います。来年度からは授業時数も増え、多くの学校で教育課程が見直され、アニマシオンどころではない。という現状が待ち受けています。だからこそ、学級経営の柱の一つとしてアニマシオンを掲げてみてください。アニマシオンが実践できるクラスを目指してください。これは私自身の新年度の課題でもあります。

書かれていることをきちんと捉えることができれば、その本の持つ良さ、楽しさ、奥深さに気づくことが出来、読書がより充実したものになるということを実感しました。この経験の積み重ねで優れた本を選ぶセンスも磨かれていくのだろうと思います。

また、読んだ本について、作戦に従い自分の中で静かに思考した内容を言葉で表現する知的な作業は、日常生活における他者とのコミュニケーションでも生かされると考えました。相手の言葉や事情を踏まえて、自分の思いや考えを相手に伝わるように表現する力に繋がるからです。

在任の千葉県佐倉市で、子育てネットワーク「ジャンクルジウム」が主催する小学生対象のアニマシオンが開講されていることを知り、すぐに娘を参加させることにしました。娘が参加し始めて四年が経過します。良い読み手として育つにはまだまだこれからですが、少しずつ読み応えのある本を選ぶように成長していきま

我が子と共に 「読書へのアニマシオン」

金子 志乃

生後二ヶ月の娘に絵本の読み聞かせを始めたのはちょうど十年前でした。言葉の理解や絵の認識が出来るはずもない時期から、娘の横に寝転がり毎日読み続けていました。成長と共に絵本の表紙を見るとキヤツキヤツと笑うようになり、好きな絵本を指し示すようになり、読んで読んでとせがむようになりました。

その頃は、ただ漠然とこの子にとって本が価値あるもの、救いとなるものになるようにと思っただけのことでした。毎日の読み聞かせの甲斐あってか、小学校に上がる頃にはすっかり本好きになっていくように見えました。

ところが、学校の図書室や市の図書館で借りてくる本と言え、気軽に読める娯楽性の高いものが増えてきたのです。子供達の間で流行っている読み易い本に偏っていたのです。このままで良いのかしらと疑問が湧いていました。

『ドイツ読書基金から学ぶ』 社会の発展と安定のために「読書ができる」こと

公開ディスカッションに参加して
事務局 二見 小百合

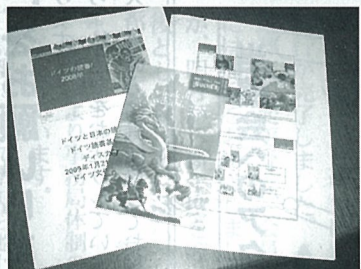
◇去る一月二日、東京ドイツ文化センターを会場にして標記の会が開催されました。
同センター主催(財)出版文化産業振興財団(JPIC)、(財)文字・活字文化推進機構(社)日本書籍出版協会の共催で開催された会には当日一八名の参加がありました。

私たちがこれからの読書推進の運動にどのように関わられるのかという関心の下で会に参加しましたが、モデルとしてドイツの現状報告を聞くことができた大変有益でした。
以下、当日の話を紹介しながら私たちにできることを考えていきたいと思います。

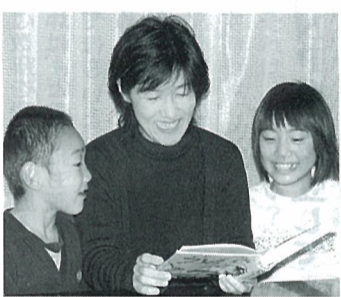
■前半は、ドイツ基金会長・ハイブリッヒ・クライビツヒ氏、副会長兼企画部長・トーマス・クライネブリック氏よりドイツ読書基金の現状報告がありました。
読書推進読書調査を担う非営利機関であるドイツ読書基金は、ドイツ国民の読書力向上のために一九八八年に設立され、公的機関や民間企業向けに実施するプロジェクトの事業収入により活動予算の多くを賄っています。また、ドイツおよびヨーロッパで読書推進の中心的な役割を果たしています。

■ドイツ読書基金は文化省・産業界・出版・図書館・教育界・各種メディアに広くネットワークを持ち、読書する国民育成のために五つの目標を掲げています。
一、マルチメディア社会に生きる子供に対する読書へのアクセスの確保
二、家庭・幼稚園・図書館・学校での複合メディアを使用した読書推進
三、読書推進協力者(両親、教育者、司書)の増強(読書推進協力者の養成・研修・継続教育の実施)
四、読書推進インフラ・ネットワークの強化(読書推進組織に対し、「自助努力を促すための援助」を提供)
五、読書とメディア研究推進の関連づけ
五、読書への意識向上
【メディアキャンペーン・イベント】
■ドイツ読書基金は、教育上効果

また、後半は共催団体である(財)文字・活字文化推進機構の肥田美代子代表から、推進機構によるこれまでの国内での読書推進の流れ、二〇一〇年の国民読書年に向けた準備が進んでいること、翌二〇一一年の世界子ども読書年の国連決議へ向けて働きかけをしていくことについて説明がありました。
◇二〇一〇年の国民読書年に向け、これから読書推進活動の活性化が予想されます。
私たちが協会としてできることは、日本国内にあるさまざまな読書系の団体の活動に積極的に参加し、多くの団体を連携して大きな働きが実現される日を夢見て学んでいくことではないかと感じました。



2008年、ドイツで撮影された「世界の旅」の資料。当日配られた「世界の旅」の資料。



金子さん親子が楽しむ読み聞かせ

本の力

『ペドロの作文』が結んでくれた出会いと夢

内野 史子

今、私は感動を胸に一冊の絵本を見つめている。
『ペドロの作文』(※1)。舞台は、日本から遙か遠い南米チリ。私たちにあまり馴染みのないこの国のさほど遠くない独裁政権の過去を問ひ、政治、人間、家族の複雑な関係を、ひとりの少年を通して描き出す心に深く残るストーリーだ。銃を構える軍人に背を向け、ただならぬ緊張感を含む空の下で、少年は平然と作文を読み上げている。両親と自分を守るために書いた、嘘の作文を……。

一人の少年

物語のようなこの「こと」の始まりは、今から十年前。チリからやって来た九歳のR少年が、ある公立の小学校に転入してきた。当時少年の日本語指導を任された教師、A氏は一年間毎日少年に日本語を教え、時に少年からスペイン語を教わりギターを弾いて和ませた。少年の父親は、我が子とこの親切なA氏との出会いを心から喜んだ。ある日A氏の自宅に招かれた少年の父親は、チリの人々には決して忘れることのできない、痛ましい軍事独裁の歴史を初めて日本の友に伝えることができた。やがて互いの忙しさに連絡をとることはなくなっていたが、A氏の手帳にはいつもローマ字で一杯の、少年の父親からのメモが挟まれている。

日本語教室がはじまった

時が過ぎ、A氏は教頭という立場で、私が読書指導員として勤務する小学校に昨年(二〇〇八年)の秋、外国籍の子どもたちのための日本語教室を開いた。実はこの小学校は、児童数が142名の小規模校であるが、ペルー、メキシコ、ブラジル、フィリピンの国籍を持つ子どもたちが全児童の一割以上を占めている。その子どもたちの言語の問題を改善するために、A氏は日本語指導の協力者を探し、外国籍の子どもたち十七人のための授業を行うことにしたのだ。私は、その小学校の読書指導員でありながら、協力させてほしいと申し出た。自身の多感な十代の五年間を外国で過ごし、目の前にいる子どもたち同様、外国人として見られる居心地の悪さ、言葉のわからないもどかしさはいやと言うほど経験した。忘れかけていた子ども時代に再



び胸が疼いた。

教師一名、ボランティア五名、読書指導員兼ボランティア一名からなる日本語教室が、A氏を中心にスタートした。言葉の勉強を軸に、それぞれの国の挨拶やゲーム、歌を取り入れた楽しいクラスになったが、やがて私は「読書」「本」という道筋でこの教室の役に立てないか、と思うようになった。思えば異国の地で言葉に苦しみ、帰国して尚あやふやになってしまった日本語の修復にもがき、いわば言葉にまみれ続けた私が今こうして言葉を操り、読むことの大切さを訴える身で、子どもたちの経験を文字文化に身を置いて現在の自分にならざるもの、それはどう考えても「読む」ことを中心に言葉を内に溜め、外に吐き出すという日々の積み重ねであったとしか考えられなかった。

世界とつながっている

「本」が、子どもたちと言語を結び一助にならないか。私はそのヒントを求め、日本アニメーション協会の黒木先生を訪ねた。私の問いかけをじっくり聞いてくださった先生は、現在、移民の問題は世界中で起きており、それぞれの国の事情に応じて読書の世界が役割を担い、対策が練られている事実を話してくださった。特にフランスのアニメーションが、移民の子どもたちとフランス社会をつないでいる現状やアメリカのニューメキシコ州で、南米からの移民の子どもたちに工夫をこらした方法で英語教育を行っているリバー・すみ子さんのお話は興味深かった。かつて私が暮らしたドイツでも、読書推進の中心部分に移民の問題があがっていることも知った。今、自分のいる、小さな小学校の小さな日本語教室が、広い世界の動き

の大切な一部分であることを感じることができた。

あーそれは『ペドロの作文』だ!

数カ月して、私は日本語教室終了後A氏からチリの教え子の話を聞いた。手帳に大切に挟んである、うっかりすると間違えて捨ててしまいうなほ小さく折られた紙には、書き手の感謝が溢れていた。そして、私はその時初めてチリのクーデターの話、思想弾圧により家族を失ったチリの人々の悲しい歴史を知った。話を聞いていたうちに、ふとある表紙が鮮明に浮かんで来た。とても鮮明に、『ペドロの作文』だ。あの絵本に間違いない。胸が高鳴った。

読書指導員でもある私に『ペドロの作文』を紹介され、絵本を手にしたA氏。読み進める程に、R少年の父親の話が鮮やかに甦る。教師としても、ペドロのいたいたけな行動が切ない。サッカーの好きなR少年とサッカーボールをほしがらぬ少年ペドロが重なったのかもしれない。胸騒ぎがして、と後に語ってくれたのだが、A氏はR少年親子に約五年ぶりに連絡をとった。もう二十歳になったR青年は、今はチリの大学の医学部に入学し、休暇中で日本にいるが一週間後にはチリに戻るとのこと。数日後、青年とその両親との再会を果たしたA氏は、ボランティア全員に次のようなメールを送った。

「次週の指導案を送ります。思いがけず、私の教え子で現在チリの医学部で学ぶR青年が、私たちの教室にゲストとして来てくれることになりました。教室の子どもたちに、夢を実現した彼の体験を語ってもらいましょう。テーマは、夢です。」

出会い、そして子どもたちにもたらされた夢

帰国を二日後に控えた端正な顔立ちの青年は、約束通り私たちの教室を訪ねてくれた。スペイン語を話す素敵な「お兄さん」は、すぐに子どもたちに取り囲まれた。青年は、日本語が全く話せなかったころのこと、A先生との楽しい日本語の授業、小さい頃から医者になりたかったことなど、流暢な日本語と優しい声で、子どもたちにゆっくりと語りかけた。「君たちも必ず今の努力が実る時が来る。夢を持ち続け、決してあきらめないでほしい。」子どもたちの表情はみるみるうちに輝いてきた。そして、殆ど

口を開くことのない子どもまでが、将来の夢を語り出した。「私は女優になりたい。」「僕は宇宙飛行士。」「ダンサー、彫刻家、牧師さん……。学校で見せる子どもたちの表情からは、想像もできなかった。

「こんな授業はどんなにしたいかでもできない。」どのボランティアも感動で胸一杯だった。陽の当たらない外、外国籍の子どもたちのために会した面々である。この一冊の絵本が引き寄せた奇跡のような出会いに、不思議な力を感じないではいられなかった。A氏は自分の教え子の姿に目が潤んでいた。私は読書指導員として、そしてこの教室のボランティアとして、「本と言葉」ではなく「本と人」をつなぐことのできた初めての経験に驚くばかりであった。

『ペドロの作文』を贈る

A氏からR青年に贈られた『ペドロの作文』には、それぞれのサインとメッセージが寄せられた。私はその時の精一杯の気持ちを込めてこう認めた。「子どもの本は世界の架け橋。この出会いを胸に刻んで」。尊敬する女性、イェラ・レップマン(※2)の至言である。

それにしても、あの時、つまりはA氏からチリの話を耳にした瞬間、なぜあれほど鮮明に『ペドロの作文』の表紙が思い浮かんだのか。そのナゾはこの原稿執筆の依頼を正式に受けた、アニメーション協会の事務所でわかった。私は黒木先生をお訪ねしたあの日、協会の掲示板で『ペドロ少年』を一瞬見かけたことを、ようやく思い出した。

※1 『ペドロの作文』



文アントニオ・スカルメタ
絵アルフォンソ・ルアーノ
訳宇野和美
アリス館
1,300円+税

連載リレーエッセイ 第四回 小さい頃好きだった本

森 和子

東京オリンピックの年、私は小学校一年だった。ちょうどその頃、日本の児童書も少しずつ充実してきたのではないかと、二〇〇一年に一部が復刊されたので御存知の方もあるかと思うが、「講談社の絵本」というものばかりであった。家の近くには、本屋などなかった。ときどき、吉祥寺まで母と一緒に買い物に行き、名店会館という吉祥寺で一番大きなショッピングセンターがあった。その二階に本屋があり、母が買い物をする間、その本屋の入口に講談社の絵本がずらりと並んでいて、その日に買ってもらおうと物色していた。名店会館の買物の度に一冊ずつ本を買ってもらい、いつの間にか、小さな本箱一杯になっていた。

「かぐや姫」、「白雪姫」、「安寿と厨子王」、「三びきのこぶた」、「イソップ物語」など、いわゆる著名なお話ばかりで、この講談社の絵本によって出会った。その絵本を飽くことなく、何回も何回も読み返していた記憶がある。小学校の二年では、とても本が好きで先生が担任だった。毎日のように読み聞かせをして下さった記憶がある。初めて岩波や福音館の本に出会い、

の物語は、七十年代に書かれたものが、当然のことながら当時本国では発表できず、のちにドイツやイタリアでラジオドラマ化されました。もともと子どもに向けて書かれたのではなかったのですが、この作品を子どもにも伝えていきたいという編集者の手で、絵本仕立てにして一九八八年にスペイン語版が刊行され、その本と私が、さらには私と日本の編集者が出会い、日本語版ができました。その本が今、人をつなぎ、国を超えて人の心をつないでいる。内野さんのような方のおかげで、本は読者と出会い、読者は本と出会うのだと、感謝とともに実感しています。

内野史子(うちの・ふみこ)
当協会会員。一九八七年成城大学文学部ヨーロッパ文化学科卒業。十歳から五年間、旧西ドイツのギムナジウムに通う。現在、読書指導員として小・中学生の読書推進に努める。千葉県八千代市在住。

コメント

宇野 和美
実話ではないが、当時のチリならいっていいかもしれない。おかしなこ

読んだのもその頃で、無人島で生活するなどというお話を自分で書いたりもした。誰かの家に集まり、数人で紙芝居を作り、朝の学級会で発表するというのがあった。とにか、毎日かとも楽しんでました。とにか、毎日がとても楽しくて楽しくてしかたがない、という日々だった。学校で一番好きな科目はと尋ねられると、きまつて国語と答えていた。

小学校に入学する少し前に、武蔵境に引っ越した。駅前には二階建てのかなり児童書も充実した本屋があった。家では、月に一冊ずつそこで本を買ってもらっていた。よくその本屋に立ち寄り、次に買ってもらおうとあれこれ物色していた。何回かの引っ越しで残っている本は僅かなのだが、石井桃子の『三月ひなのつき』や中川李枝子の『ももいろのきりりん』などは、今も手元にある。当時、NHKのドラマで『次郎物語』を放送していた。私は、ただただ次郎がかわいそうに思い、それをよく日記に書いた。すると、担任の先生は、「大きくなったら、『次郎物語』をプレゼントするから」とおっしゃってくださった。三年になるときに他校に異動されたのだが、本当に小学校卒業するころ、ご自宅に呼んでくださり、「ご自



身の書棚から全巻抜き取りプレゼントして下さいました。三年になると、さして本を勧められる人もいなくなりました。成人してから、当時続々とおもしろい本が出版されていたことを知り、よき紹介者がいたらと悔やんだ覚えがある。中学一年で、またまた『次郎物語』との出会いがあった。私はすっかり忘れていたのだが、数年前に実家の押入れの奥から当時の文集が出てきたのだ。それによると、四十冊の『次郎物語』を新規に購入して、クラス全員が読むという取り組みをしているのである。そして何人かの感想文が載っていた。何十年かぶりに、あの人、あんな風に感じていたのだと実に興味深く読み返した。担当教師もクラス全員で読んだ意義を書いていた。今、私は小学校で図書の時間に読み聞かせをしているのだが、改めて選書を大事にして、一冊でも一生心に残るような本を選んでいきたいと思うのである。また、クラス全員で同じ本を読むことによって、自分と違った感じ方に気付くアニメーションにも取り組んでいきたい。

森 和子(もり・かずこ)
当協会理事
東京都町田市立鶴川第四小学校
図書指導員

アニマシオン用貸出図書リスト (2009.3月現在)

Table with 4 columns: 対象学年, No., 書名, 対象学年, No., 書名, 対象学年, No., 書名. Lists various books available for borrowing, categorized by grade level (A, B, C, D).

【対象学年の区分】 小学校低学年・・・A 小学校中学年・・・B 小学校高学年・・・C 中高生以上・・・D *142,143,144は新しく入った本です。

アニマシオン用貸出図書の利用方法

- 1. まず協会(047-402-3111 平日13時~19時)にお電話ください。
2. 事務局より料金着払いにて発送します。
3. アニマシオンの実施が終わりましたら、速やかに事務局まで料金元払いでご返送ください。

アニマシオン用図書貸出状況

貸出総数 261 タイトル、総冊数 5220 冊になりました!
4月~8月(5ヶ月)までが99タイトル、9月~11月(3ヶ月)が102タイトル、12月から3月が60タイトルと順調に推移しています。

貸出しを利用された方からのお便り

H小学校F様
『ちょろりんのすてきなセーター』で戦29「物語を語りましょう」をやりました。1年生と2年生で保護者と一緒に体験してもらいました。

H小学校S様
9月からいろいろな作戦に取り組んできた2年生の子供たちに、今回絵本から幼年文学へのステップアップをしてみました。

S小学校I様
『ネコのタクシー』ありがとうございます。今週末、音楽会で馬場のぼるさん原作「11匹のネコ」の音楽物語を演じるので、子どもたちにとってはネコづくしの日々です。



アニマシオン勉強会の報告
二〇〇八年十二月十三日(土)に東京・信濃町「真生会館」で第九回勉強会を、二〇〇九年一月八日(土)に同会場で第九回勉強会、二月十四日に第九回勉強会を開きました。

勉強会のお知らせ
2001年3月に始めた「アニマシオン勉強会」が当協会の母体となりました。引き続き、これまでと同じように毎月勉強会を開催いたします。

第九十四回勉強会
『やまあらしぼうやのクリスマス』
『フェリシア・ポンド絵』
『それは、たしか...?』

第九十五回勉強会
『オフェリアと影の一座』
『ミヒヤエル・エンテ文』
『フリードリヒ・ヘッヘルマン絵』

読み聞かせの後で、ひとりに一枚カードが手渡されました。すぐわかるものなかに二、三枚のわがりにくカードがあると思いが、さきでこれだれのもの?
『この作戦を行う時の注意事項は、紙芝居方式で行わないという事です。』



編集後記
最近目にする出版物の多くは非常に字が大きい。新聞はもちろんのこと文庫本なども字がとて大きく、ありがたくも読みやすい。昔読んだ文庫本など、うっかり引張り出して来ようものなら最早読む気になれない細かさだ。これをガタガタゆれる電車の中で読みふけていたのだから視力が落ちたのかもしれない。▲ところが、視力の低下はかつてのよくない読書環境ゆえとばかり思っていたら、近頃は近くのものもよく見えないという困った事態になってきた。図書館の書棚も、スーパリーの陳列棚でさえも少々離れないとよく見えないなんて。▲そういうわけで、今回アニマシオン用貸出図書のリスト、字を大分大きくしてみました。(編集長 塚本 美樹)

事務局だより
年明けから引越しまつわるゴタゴタと、新年度に向けた準備に追われています。▲二月いっぱいには新事務所と旧事務所の同時並行移行が完了しました。▲貸出図書への返却先の変更など、会員のみなさまには面倒をお掛けしまして恐縮ですが、四月から新年度を迎えます。今後ともよろしくお願ひいたします。(事務局長 飯塚 康之)

&ドン・フリーマン作やましたはるお訳(BL出版)の読み聞かせでオペラやオフェリアがやっていたプロンプターについて話題が広がりました。▲後半は、エンデの『まほうのスープ』(岩波書店)を紹介した後で、参加者各自の今年の抱負を述べ合い、和やかに会を終りました。
第九十六回勉強会
『アルケミスト』角川文庫を予読して学びあいました。事務局一見小百白



2009年2月14日 第96回アニマシオン勉強会